



校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です

ささりんどう

〔学校教育目標〕 ～感動し、共に喜びあえる児童の育成～

鴻巣市立箕田小学校 学校だより
令和6年8月29日

児童数
男子 122名
女子 138名
合計 260名



視点を変える ～視点を変えることで世界が変わる～

校長 清水 良江

今年の夏はパリ五輪で盛り上がり、多くの日本人選手の活躍に日本中が沸きました。メダルの数も海外開催での五輪では最多。東京五輪に次ぐ歴代2位とのことで、本当に素晴らしい活躍だと思います。しかしそれ以上にそれぞれの選手の思いやこれまで歩んできた奥の深いストーリーは見ていた私たちの心を揺り動かしました。最後まで自分のもつ可能性を信じ、真っすぐな心で向き合う勇姿あふれる姿に数えきれないほどの感動をもらいました。次に行われるパラリンピックではどんなドラマと出あえるのか、今からとてもわくわくしています。

さて、私はこの夏休み、田中達也さんというミニチュア写真家にすっかり魅せられました。田中さんはご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、今から約7年前にNHKの朝ドラ「ひよっこ」でオープニング映像を手掛けた方です。日々、ミニチュアの視点で日常にあるものを別の物に見立て、思いもつかない一つの作品に仕上げていくのです。テーマも様々で、これまでも日常の生活から歴史的なもの、戦争にかかわる内容など多様な視点で考え、思わず微笑んだり、深く考えさせられたりする作品をたくさん生み出してきました。よく見ると、その発想はどれも奇抜で豊か、目を見張るものばかりです。私たちが普段目にしていない何気ない日用品や道具、食品などがどんなものにも変わるのがこのアートの醍醐味です。自分たちから見たら単なるカミソリやクリップ、チョコレートでしかないものが、田中さんの手にかかると、それらはピアノやいす、時には家具の一部になったりと思いがけないあっと驚くものに変身していきます。私達は物事を考える時、つい固定観念や先入観が先にきてしまい、発想も一点に集中し、視点も狭くなりがちですが、田中さんは違うのです。はじめから物事を「視点を変えて」見ていくのです。

見方を変える、視点を変えて考えてみるということは、私たちの日常生活にもよい影響を与えそうです。物事を一方向で考えるのではなく、様々な視点で考えることにより、多様な考え方を手に入れることができるからです。そうすることで取るべき選択肢も増え、心にもゆとりがもてるかもしれません。

視点を変えることで世界が変わる。自分自身もそんな見方ができるようになりたいと思っています。

🌸 SNS に関連する課題が急増！ ～ネットやゲームに代わる楽しいことを見つけよう～

子どもたちのネットやゲームへの依存が急に進むことがあります。「長時間スマホを見ている」「ゲームがやめられない」「YouTubeや動画をずっと見ている」など約束を決めてもそれを守れないのは、やりたいという自分の欲望をまだうまくコントロールできないことにも起因します。我慢する心は、小さい時期から育ててく必要があります。世界保健機構（WHO）は、ゲームのやりすぎで日常生活に支障をきたす状態を「ゲーム障害」という疾患として位置付けました。その基準は①ゲームをする時間や頻度などを自分で制御できない②日常の関心事や日々の活動よりゲームを優先する③社会生活に支障をきたしてもゲームを続けるなどの三点です。これらが12か月続くとゲーム障害と診断するそうです。ネットやゲームに依存してしまう子どもは年々低年齢化・急増しており、ネット・ゲーム依存専門外来を訪れる患者に最近は小学生も珍しくはないとのこと。子どもの依存症は、保護者から子への干渉が強すぎたり、成績が伸び悩んだりなど、現実の生活が満たされていないことが原因であることも少なくないようです。しかし、そんな場合でもゲーム機を取り上げないことや本人を責めないことを基本とし、「何が満たされていないのか」を周りが理解し、サポートすることが大事になります。ネット視聴時間やゲームの時間が長くなってきたり、遅刻が増えたり、これまで取り組んでいたことをやめたりなど社会生活に支障をきたすようになっていないか、日頃から注意を払って見ていく必要があります。

ネットやゲームに代わる楽しいことを見つけられるよう、家族で一緒に考えていけるとよいですね。〔朝日新聞記事参照〕